



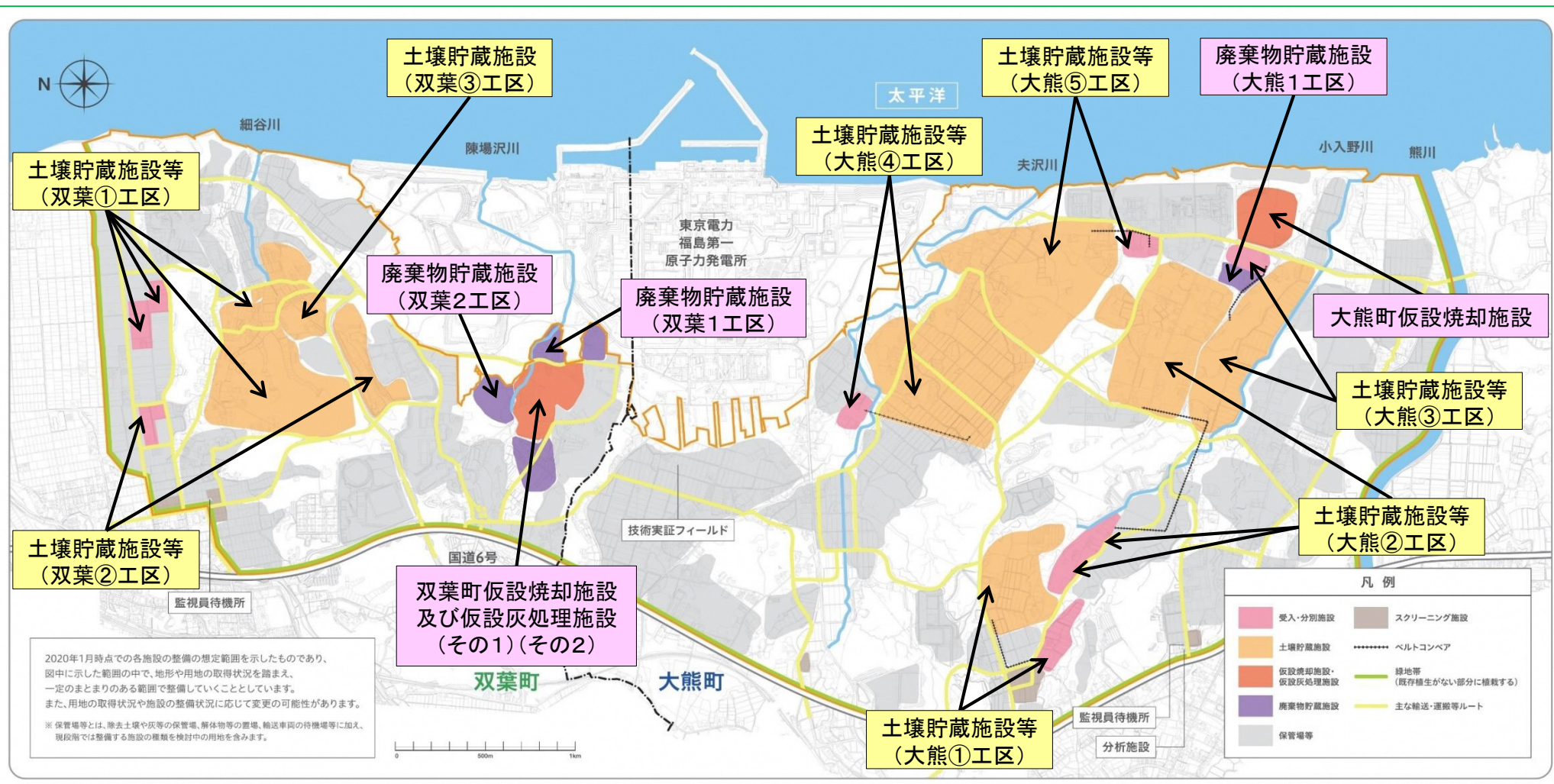
中間貯蔵施設事業の状況について

2020年8月

環境省

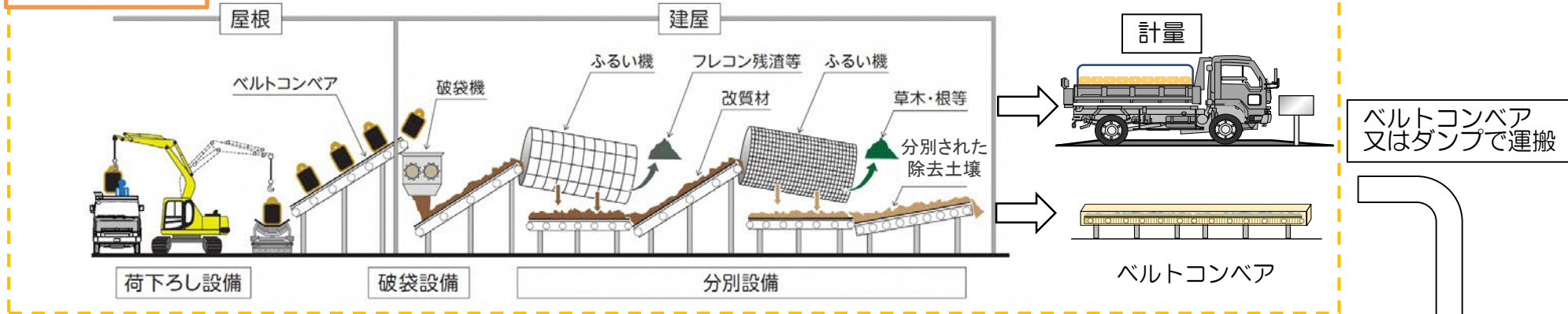
施設の整備

主な施設の配置

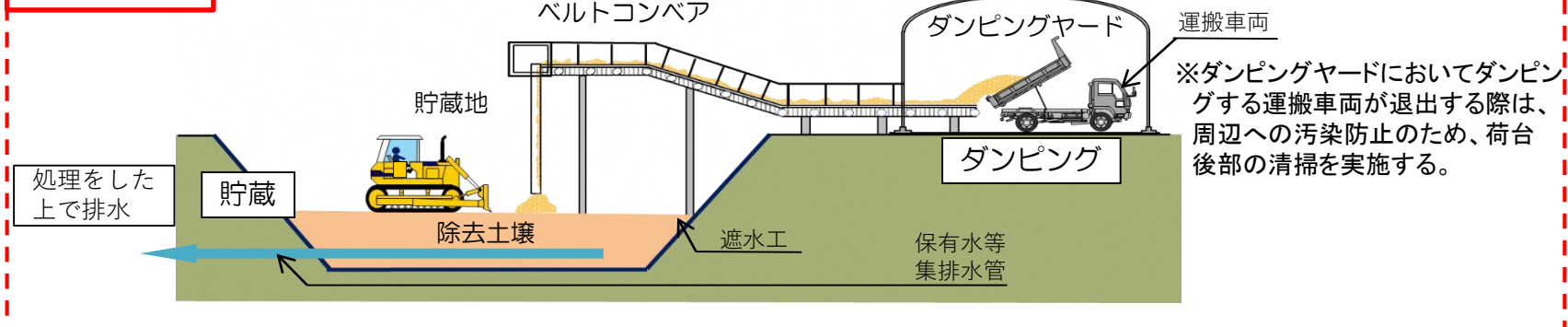


除去土壌の分別処理と貯蔵のイメージ

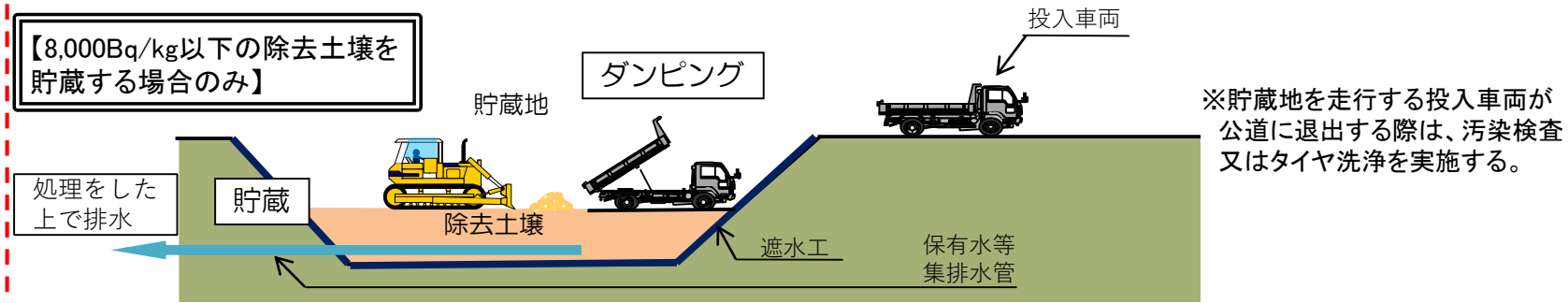
受入・分別施設



土壌貯蔵施設



【8,000Bq/kg以下の除去土壌を貯蔵する場合のみ】



受入・分別施設及び土壌貯蔵施設の概要

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
受入・分別施設数※ ¹	1	2	1	1	1	2	1	—
貯蔵容量※ ²	約100万m ³	約330万m ³	約210万m ³	約140万m ³	約200万m ³	約140万m ³	約90万m ³	約80万m ³
着工	2017年 9月着工	2016年 11月着工	2017年 11月着工	2018年 10月着工	2018年 10月着工	2016年 11月着工	2018年 1月着工	2018年 9月着工
受入・分別施設スケジュール	2018年7月 運転開始	2017年8月 2018年7月 運転開始	2018年7月 運転開始	2019年8月 運転開始	2019年8月 運転開始	2017年6月 2018年9月 運転開始	2019年2月 運転開始	(なし)
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月 運転開始	2017年10月 運転開始	2018年10月 運転開始	2020年3月 運転開始	2019年4月 運転開始	2017年12月 運転開始	2019年5月 運転開始	2019年12月 運転開始
受注者	鹿島JV	清水JV	大林JV	清水JV	大林JV	前田JV	大成JV	安藤・間 JV

※1 発注時の1施設当たりの処理能力は140t/時。双葉③工区は、受入・分別施設を整備していない。

※2 貯蔵容量は、仮置場等からの輸送量ベース（1袋＝1m³で換算）。用地確保状況等により変更となる可能性がある。

土壌貯蔵施設等（大熊①工区）の状況

- 2017年9月に施設の工事に着手。
- 2018年7月に受入・分別施設の運転及び除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ★: 土壌貯蔵施設

● **貯蔵量 約 64.5万^m₃**

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2020年7月31日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊②工区）の状況

- 2016年11月に施設の工事に着手。
- 2017年8月及び2018年7月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2017年10月に除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設(第2期)



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 156.9万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2020年7月31日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊③工区）の状況

- 2017年11月に施設の工事に着手。
- 2018年7月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2018年10月に除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約67.8万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2020年7月31日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊④工区）の状況

- 2018年10月に施設の工事に着手。
- 2019年8月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2020年3月に除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約15.7万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2020年7月31日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊⑤工区）の状況

- 2018年10月に施設の工事に着手。
- 2019年8月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2019年4月に除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● **貯蔵量 約 72.2万 m^3**

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2020年7月31日時点)

土壌貯蔵施設等（双葉①工区）の状況

- 2016年11月に施設の工事に着手。
- 2017年6月及び2018年9月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2017年12月に除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設(第2期)



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 44.3万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2020年7月31日時点)

土壌貯蔵施設等（双葉②工区）の状況

- 2018年1月に施設の工事に着手。
- 2019年2月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2019年5月に除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 38.8万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2020年7月31日時点)

土壌貯蔵施設（双葉③工区）の状況

- 2018年9月に施設の工事に着手。
- 2019年12月に除去土壌の貯蔵を開始。



土壌貯蔵施設(西側)

施設の位置



☆: 土壌貯蔵施設




●貯蔵量 約 10.3万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2020年7月31日時点)

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の概要

工区	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
規模	<ul style="list-style-type: none"> 仮設焼却施設： 200 t / 日 × 1 炉 (ストーカ炉) 	<ul style="list-style-type: none"> 仮設焼却施設： 150 t / 日 × 1 炉 (シャフト炉) 仮設灰処理施設： 75 t / 日 × 2 炉 (表面溶融炉) 	<ul style="list-style-type: none"> 仮設焼却施設： 200 t / 日 × 1 炉 (ストーカ炉) 仮設灰処理施設： 75 t / 日 × 2 炉 (コークスベット式灰溶融炉)
業務用地面積	約5.0ha	約5.7ha	約5.7ha
処理開始	2018年2月	2020年3月	2020年3月
処理対象物	<ul style="list-style-type: none"> 大熊町で発生した除染廃棄物・災害廃棄物等 中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物 	<ul style="list-style-type: none"> 双葉町で発生した除染廃棄物・災害廃棄物等 中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物 中間貯蔵施設内で発生する焼却残さ及び中間貯蔵施設内に搬入した焼却残さ 	同左
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林・TPTJV	JFE・前田JV

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の処理量等

工区	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
処理量 (2020年7月 まで)	可燃物：131,289トン	可燃物：19,703トン 焼却残渣：11,555トン	可燃物：4,450トン 焼却残渣：3,905トン
焼却灰等の 放射性物質濃 度	焼却灰：5,800～ 96,000Bq/kg ばいじん：12,000～ 170,000Bq/kg	ばいじん：12,000～ 380,000Bq/kg スラグ：9～4,800Bq/kg	ばいじん：1,600～ 85,000Bq/kg スラグ：22～6,400Bq/kg
外観			

廃棄物貯蔵施設の概要

【貯蔵対象物】

- 主に双葉町仮設灰処理施設で発生したばいじん（鋼製角形容器に封入し、積み上げて貯蔵）

工区	大熊1工区	双葉1工区	双葉2工区
建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造＋鉄骨造（2棟）	鉄筋コンクリート造＋鉄骨造＋鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造＋鉄骨造（1棟）
貯蔵容量	29,280個	14,678個	約30,000個
敷地面積	約2.4ha	約2.2ha	約3.7ha
着工	2018年7月 造成開始 2018年12月 建築開始	2018年6月 造成開始 2018年11月 建築開始	2019年12月 造成開始 2019年12月 建築開始
貯蔵スケジュール	2020年4月 貯蔵開始	2020年3月 貯蔵開始	未定
受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）の状況

- 2018年7月に施設の工事に着手。
- 2020年4月に鋼製角形容器に封入した廃棄物の貯蔵を開始。



廃棄物貯蔵施設の外観



廃棄物貯蔵施設内の貯蔵状況

施設の位置



★: 廃棄物貯蔵施設

● **貯蔵量 354個**

※ばいじんを封入した鋼製角形容器の個数

(2020年7月31日時点)

廃棄物貯蔵施設工事（双葉1工区）の状況

- 2018年6月に施設の工事に着手。
- 2020年3月に鋼製角形容器に封入した廃棄物の貯蔵を開始。



廃棄物貯蔵施設の外観
施設の位置



★：廃棄物貯蔵施設



廃棄物貯蔵施設内の貯蔵状況

●貯蔵量 846個

※ばいじんを封入した鋼製角形容器の個数

（2020年7月31日時点）

廃棄物貯蔵施設工事（双葉2工区）の状況

双葉2工区

2019年12月から建築工事（基礎工）開始
現在、廃棄物貯蔵施設棟の1階、2階及び屋上躯体工事中



施設の位置



★: 廃棄物貯蔵施設

西側法面上部より全景写真

保管場等への保管量

保管場

(2020年7月28日時点)

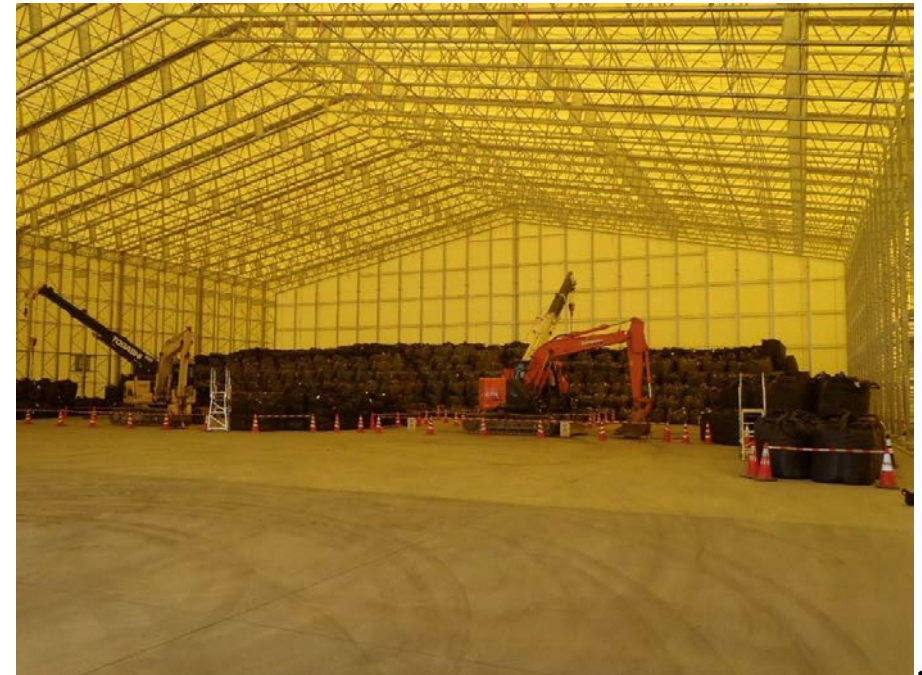
	面積 (ha)	保管量 (m ³)
大熊工区	61.4	2,239,191
双葉工区	29.0	885,547
合計	90.4	3,124,738



灰保管施設

(2020年7月28日時点)

	面積 (ha)	保管量 (m ³)
大熊工区	2.5	30,505
双葉工区	4.7	98,048
合計	7.2	128,553



輸送・道路交通対策

2020年度の輸送の予定

市町村名	搬出可能量[m ³]	学校等(現場保管)からの輸送 予定量[m ³]
福島市	370,000	—
郡山市	272,000	—
いわき市	50,000	11,000
白河市	90,000	—
須賀川市	53,000	—
相馬市	14,000	—
二本松市	121,000	—
田村市	35,000	—
南相馬市	274,000	8,000
伊達市	65,000	2,000
本宮市	72,000	—
桑折町	21,000	—
国見町	28,000	—

市町村名	搬出可能量[m ³]	学校等(現場保管)からの輸送 予定量[m ³]
川俣町	202,000	—
天栄村	2,000	—
西郷村	265,000	—
三春町	24,000	—
檜葉町	123,000	—
富岡町	406,000	—
川内村	66,000	—
大熊町	342,000	—
双葉町	312,000	—
浪江町	144,000	—
葛尾村	158,000	—
飯舘村	395,000	—

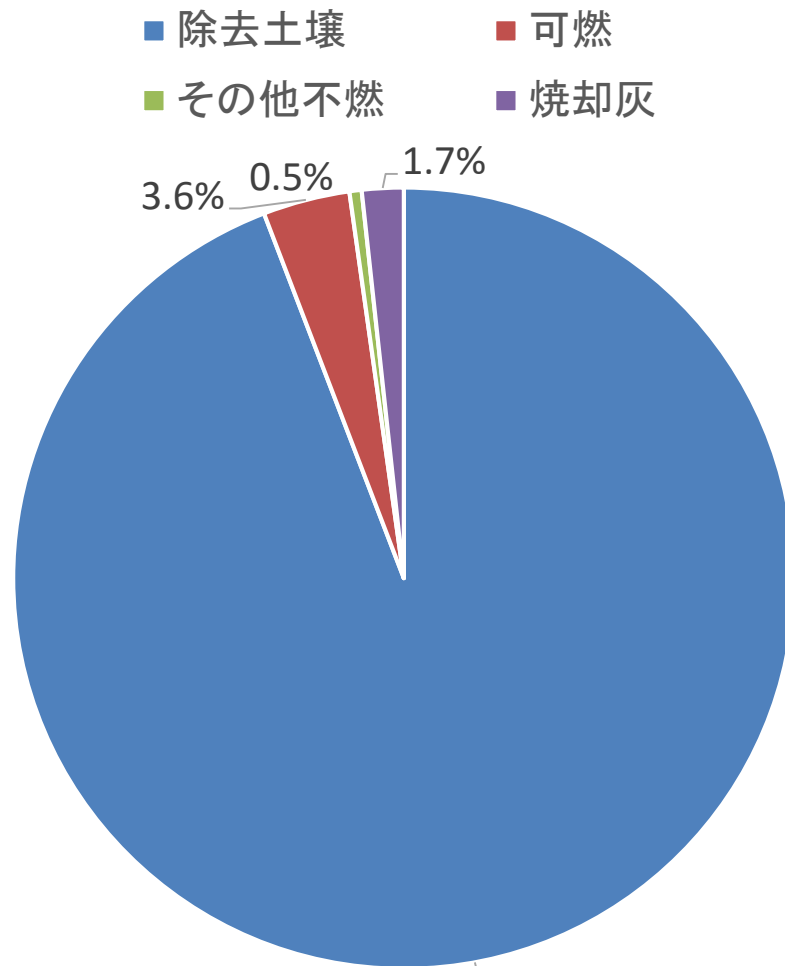
※搬出可能量及び学校等(現場保管)からの輸送予定量は概数。実際の搬出量は、保管実態や掘り起こし等地域の状況に応じて変更の可能性がある。
 ※集約時期や掘り起こし時期等によっては中間貯蔵施設への搬入が翌年度となる可能性がある。
 ※学校等(現場保管)からの累計輸送実績(R2.7.31時点)は332,046m³。
 ※輸送車両は、年間平均2,400往復/日程度の走行を予定。

2020年度の輸送実績 (7月31日時点)

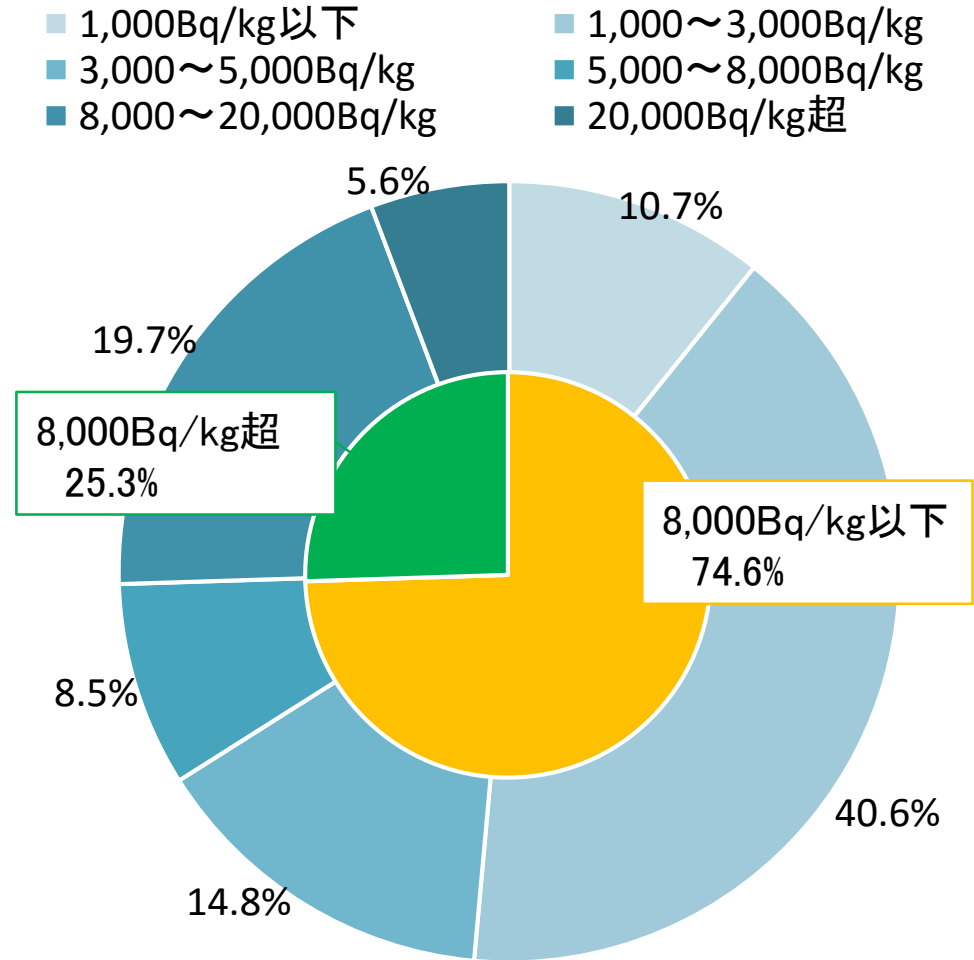
- **輸送量 計 1,557,766m³ (累計 : 8,240,899m³)**
- **総輸送車両数 計230,639台 (累積 : 1,217,444台)**

中間貯蔵施設に搬入した除去土壌等の種類と濃度の分布

- 2020年6月末までに搬入した除去土壌等のうち、土壌が94.2%であり、可燃物は3.6%、焼却灰1.7%である。
- 除去土壌について、搬出時に仮置場等で測定した表面線量率及び重量によって換算した放射能濃度の分布を見ると、8,000Bq/kg以下が74.6%を占めている。



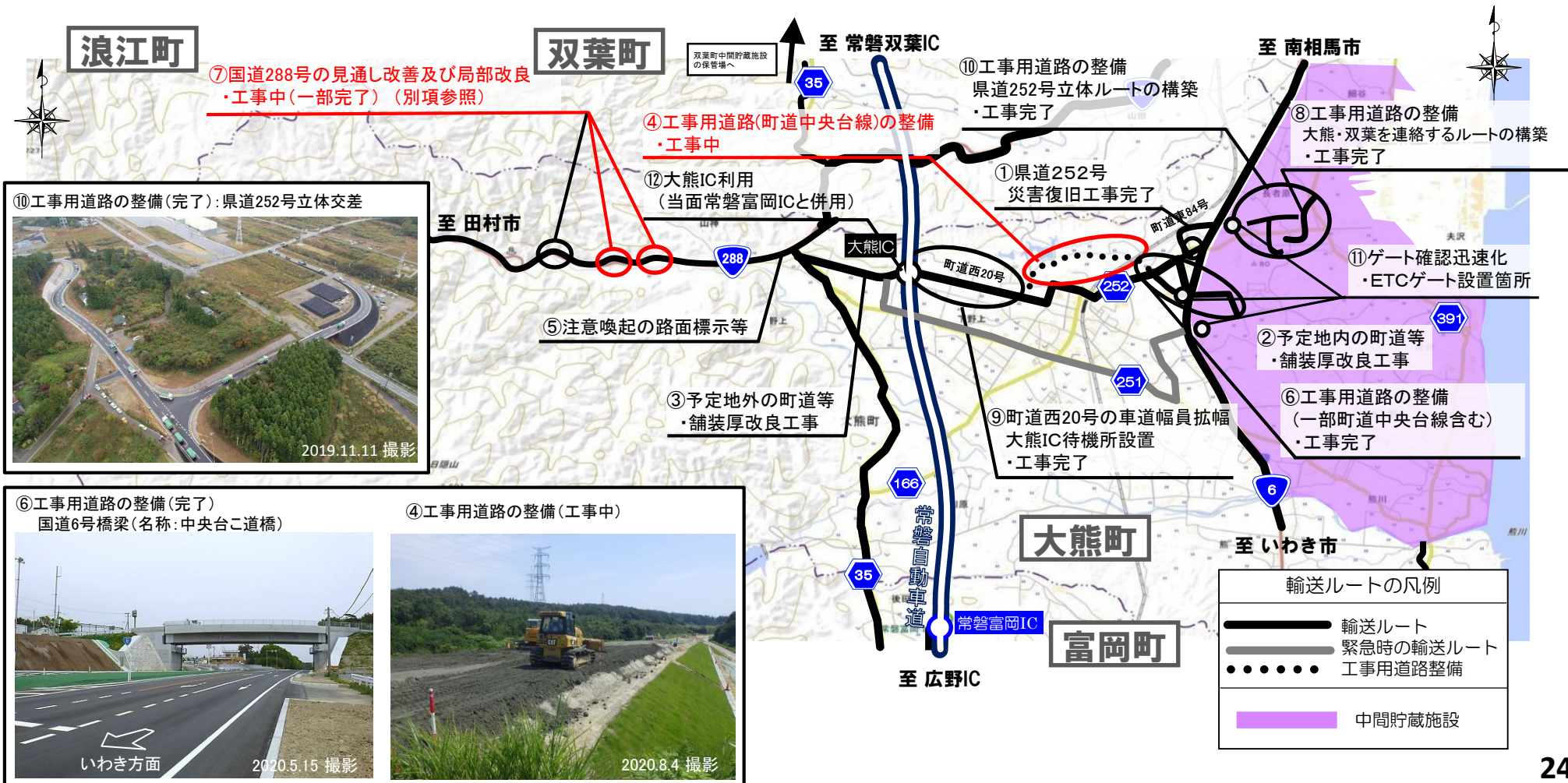
94.2%※四捨五入の関係で、合計は必ずしも100%とはならない。



輸送ルートと道路交通対策（大熊町）

○既に実施済みの箇所は黒字のとおり。

○今後の輸送に向けて、現在実施中及び今後実施予定の道路交通対策は赤字のとおり。



輸送ルートと道路交通対策（双葉町）

○既に実施済みの箇所は黒字のとおり。

○今後の輸送に向けて、現在実施中及び今後実施予定の道路交通対策は赤字のとおり。



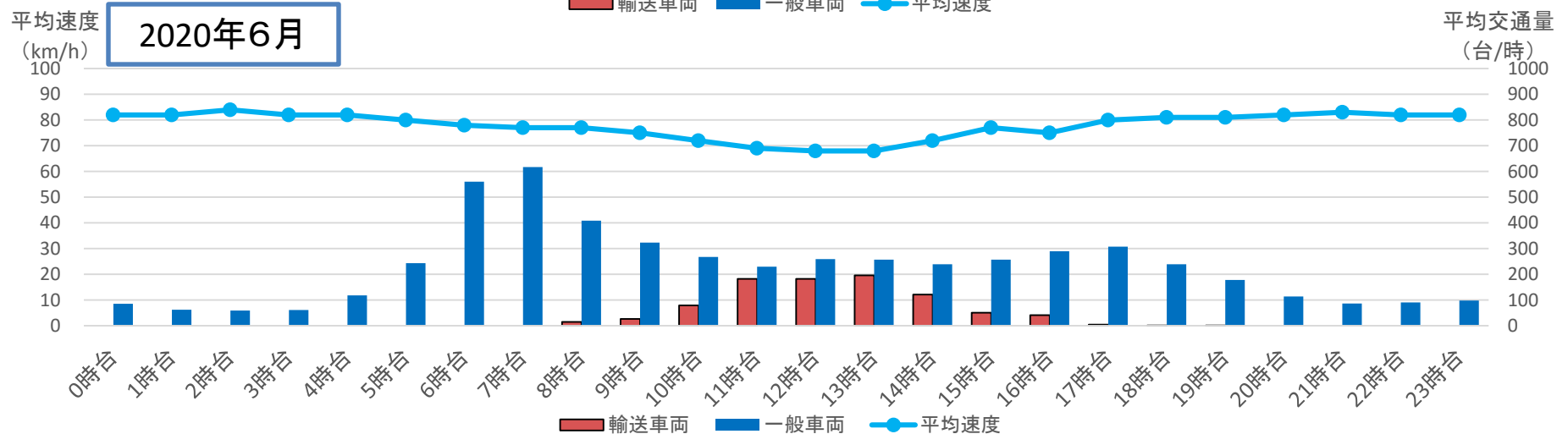
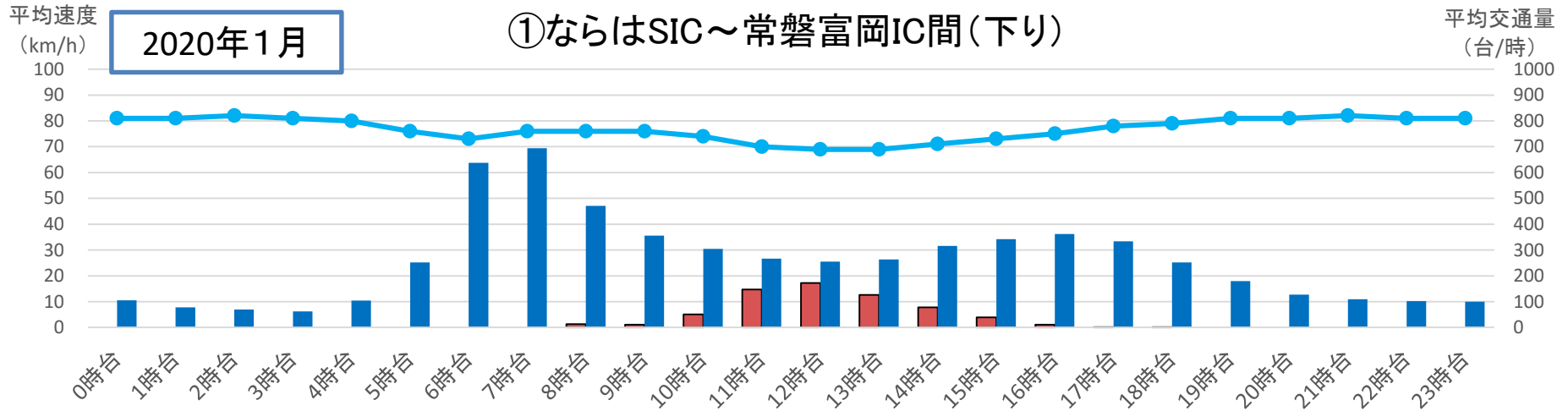
国道288号道路交通対策

- 環境省が①工区の見通し改善、線形改良、拡幅を実施済み。
- ②工区は、福島県が用地取得済み。現在、環境省が局部改良工事の準備中。
- ③工区は、福島県が用地取得済み。2019年11月から環境省が局部改良工事に着手(2020年秋頃完了予定)。
- ④工区(大熊町・双葉町の町境付近)は、福島県が側溝の蓋かけ(L=350m)及び枝払いを実施済み。
環境省が道路補修(5箇所)を実施済み。

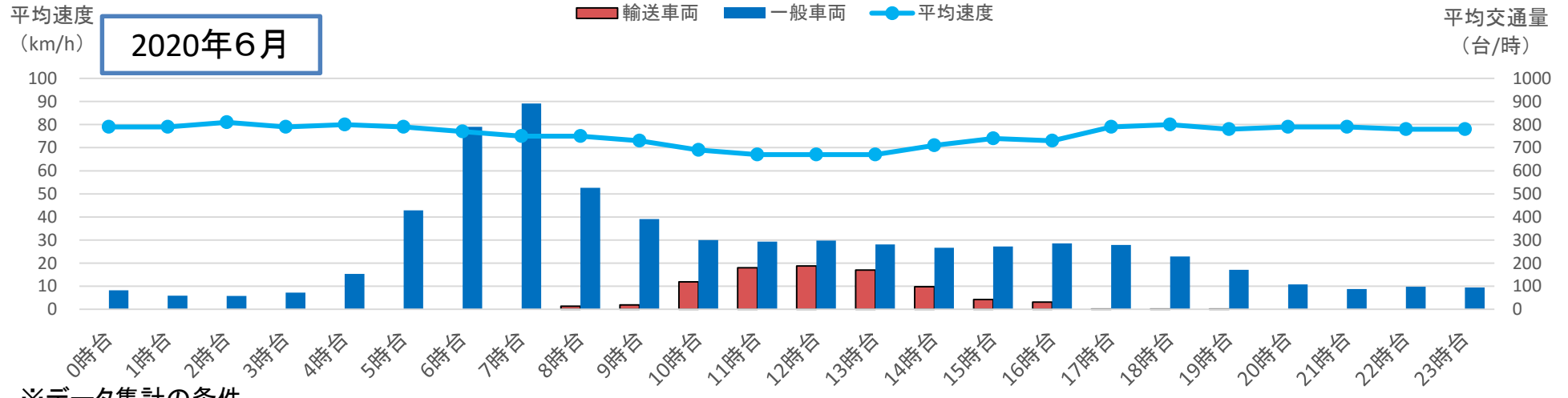
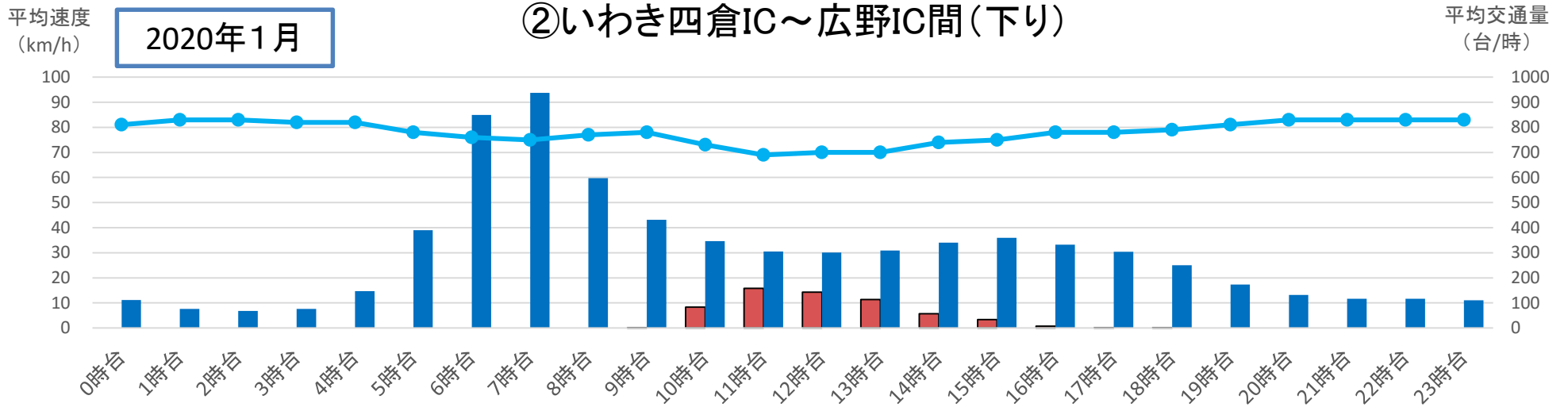


輸送ルート常磐道の交通状況 その1

- 輸送車両が走行するルートの交通量は、6時台～7時台がピークとなっており、その時間帯を避けて輸送している。
- 現在いずれの時間帯も著しい速度低下は見られないが、下りで11時台～13時台、上りで9時台にそれぞれ規制速度の70km/h前後であり、これは規制速度を遵守している輸送車両の割合が高いためと考えられる。
- 2020年1月と2020年6月の状況を比較すると、いずれの区間でも輸送時間帯における平均速度の著しい変化は見られない。
- 引き続き、関係機関と連携の上、当該エリアを含む輸送ルートの交通状況を注視していく。

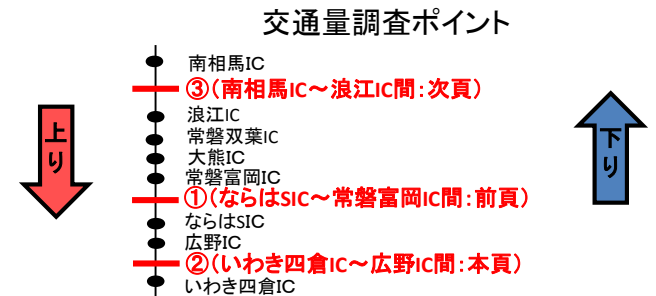


輸送ルート常磐道の交通状況 その2



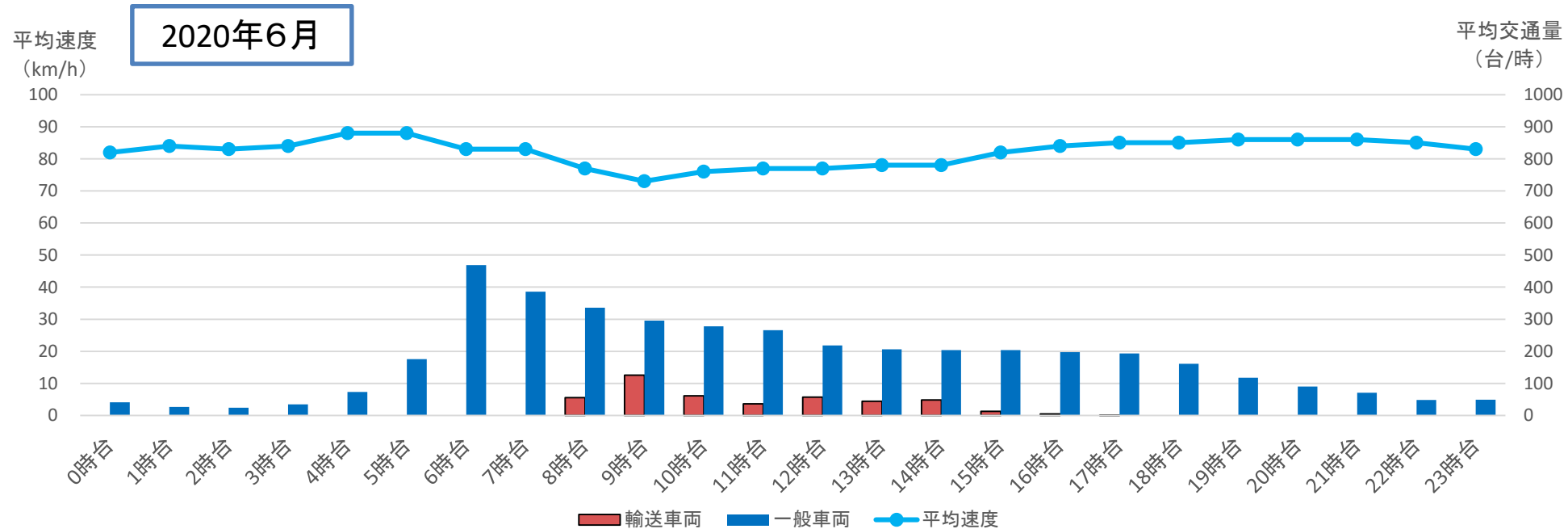
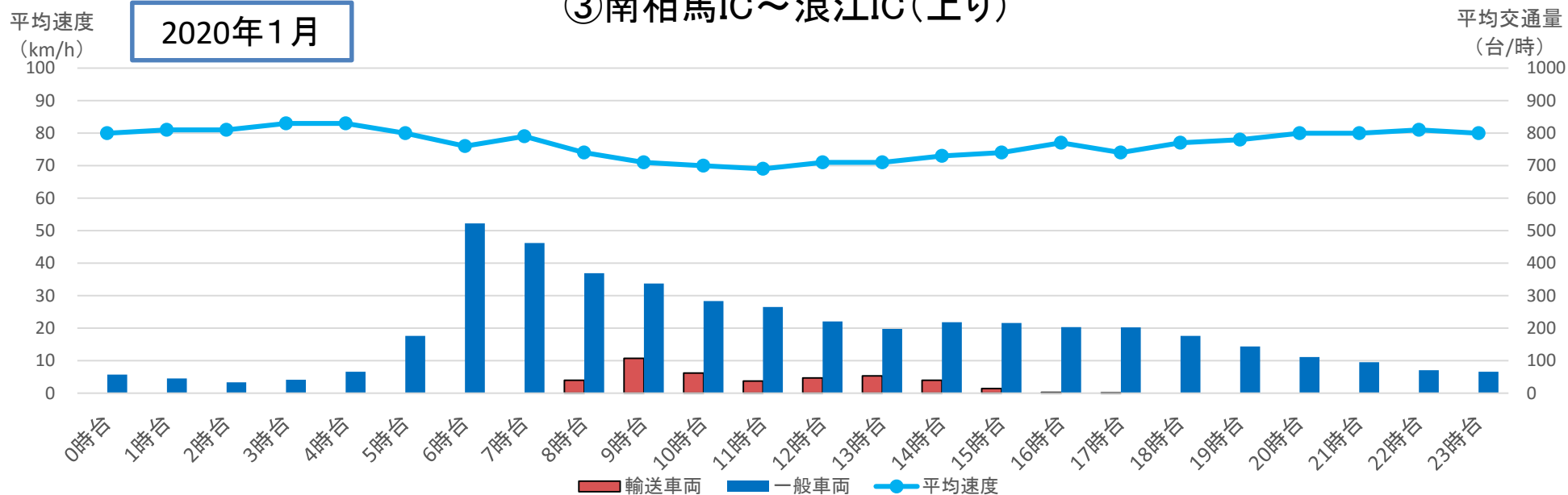
※データ集計の条件

- 速度データ(NEXCOトラカンデータ)
 - ・輸送を実施していない日曜、祝日を控除
- 一般車両(NEXCOトラカンデータ)
 - ・輸送を実施していない日曜、祝日を控除。
 - ・1日当たりの平均輸送車両台数を控除。
- 輸送車両(輸送課実走行データ)
 - ・1日当たりの平均輸送車両台数



輸送ルート常磐道の交通状況 その3

③南相馬IC～浪江IC(上り)



モニタリング等

モニタリング結果概要（受入・分別施設 その1）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
◆地下水（井戸）中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月15日～ 6月17日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月2日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月2日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月2日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月2日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月2日～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月2日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月1日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
●排気中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月16日～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月2日～ 6月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月3日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月1日～ 6月17日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月1日～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月16日～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月6日～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月15日～ 6月15日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.20

モニタリング結果概要（受入・分別施設 その2）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
★ 粉じん濃度	大熊①工区	2020年4月15日～ 6月15日（月1回）	最大値は2.1mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月3日～ 6月5日（月1回）	最大値は4.8mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月3日～ 6月5日（月1回）	最大値は3.7mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月1日～ 6月4日（月1回）	最大値は1.5mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月1日～ 6月3日（月1回）	最大値は4.7mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月16日～ 6月10日（月1回）	最大値は4.2mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月14日～ 6月16日（月1回）	最大値は6.8mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月9日～ 6月16日（月1回）	最大値は4.3mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日～ 6月4日（月1回）	最大値は2.7mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.20
★ 空間線量率 （作業環境）	大熊①工区	2020年4月8日～ 6月2日（月1回）	0.09～0.16μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月15日～ 6月12日（月1回）	0.13～0.33μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月15日～ 6月12日（月1回）	0.10～0.25μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月1日～ 6月4日（月1回）	0.16～0.24μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月15日～ 6月12日（月1回）	0.21～0.50μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月16日～ 6月10日（月1回）	0.26～0.64μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月14日～ 6月16日（月1回）	0.14～0.38μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月9日～ 6月16日（月1回）	0.08～0.14μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日～ 6月4日（月1回）	0.11～0.18μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.20

モニタリング結果概要（受入・分別施設 その3）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
★ 空気中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月8日～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月15日～ 6月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月15日～ 6月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月1日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月15日～ 6月12日（月1回）	Cs134は全て検出下限値未満、Cs137は検出下限値未満～ 1.1×10^{-7} Bq/cm ³ の範囲であり、基準（Cs134の濃度/ 2×10^{-3} +Cs137の濃度/ $3 \times 10^{-3} \leq 1$ ）を下回った。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月16日～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月14日～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月9日～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
表面汚染密度 （★床★壁★設備）	大熊①工区	2020年4月9日～ 6月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区、第1期	2020年4月15日～ 6月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.6
	大熊②工区、第2期	2020年4月15日～ 6月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊③工区	2020年4月1日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.10
	大熊④工区	2020年4月15日～ 6月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.12
	大熊⑤工区	2020年4月16日～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.14
	双葉①工区、第1期	2020年4月7日～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	双葉①工区、第2期	2020年4月28日～ 6月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.18
	双葉②工区	2020年4月10日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.20

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その1）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
◆ 地下水（井戸）中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月1日～ 6月24日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月2日～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月2日～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月2日～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月2日～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.32
	双葉④工区東側	2020年4月2日～ 6月4日（週1回）※	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 ※貯蔵作業が終了したため、2020年4月から月1回の測定としている。	資料1別添 P.34
	双葉①工区西側	2020年4月1日～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日～ 6月25日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月6日～ 6月29日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.41
● 地下水（集排水設備）中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月14日～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月23日～ 6月22日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月16日～ 6月18日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月23日～ 6月22日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月16日～ 6月18日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.32
	双葉①工区東側	2020年4月9日～ 6月11日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.34
	双葉①工区西側	2020年4月9日～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日～ 6月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月27日～ 6月18日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.41

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その2）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
■ 処理水放流先河川の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月14日～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月3日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月2日～ 6月3日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～1.4Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≤1）を下回った。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月3日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月15日～ 6月11日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.32
	双葉①工区東側	2020年4月2日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度は、貯蔵作業が終了したため測定なし。	資料1別添 P.34
	双葉①工区西側	2020年4月1日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日～ 6月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月16日～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.41
河川最下流における放射性セシウムの測定結果	前田川	2020年5月28日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78
	細谷川	2020年5月28日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78
	陳場沢川	2020年5月29日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78
	夫沢川	2020年5月28日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78
	小入野川	2020年5月29日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78
	熊川	2020年5月28日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.78

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その3）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
★ 粉じん濃度	大熊①工区	2020年4月16日～ 6月16日（月1回）	最大値は1.6mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月2日～ 6月18日（月1回）	最大値は1.8mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月1日～ 6月3日（月1回）	最大値は1.3mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月1日～ 6月3日（月1回）	最大値は0.6mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月15日～ 6月11日（月1回）	最大値は3.3mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.32
	双葉①工区西側	2020年4月9日～ 6月11日（月1回）	最大値は2.2mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日～ 6月5日（月1回）	最大値は0.5mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月7日～ 6月4日（月1回）	最大値は0.5mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.41
★ 空間線量率 （作業環境）	大熊①工区	2020年4月2日～ 6月3日（月1回）	0.10～0.35μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月17日～ 6月9日（月1回）	0.22～2.42μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月1日～ 6月3日（月1回）	0.19～0.50μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月22日～ 6月10日（月1回）	0.30～1.96μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月14日～ 6月16日（月1回）	0.45～1.48μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.32
	双葉①工区東側	2020年4月27日～ 6月15日（月1回）	0.13～0.15μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.34
	双葉①工区西側	2020年4月9日～ 6月11日（月1回）	0.16～1.78μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日～ 6月5日（月1回）	0.31～0.74μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月1日～ 6月30日（月1回）	0.14～1.48μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.41

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その4）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
★ 空気中の放射能濃度	大熊①工区	2020年4月2日～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月17日～ 6月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月1日～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月22日～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月15日～ 6月11日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.32
	双葉①工区西側	2020年4月9日～ 6月11日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日～ 6月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	双葉③工区	2020年4月7日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.41
表面汚染密度 (★床 ★境界・壁 ★設備 ★重機)	大熊①工区	2020年4月4日～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.23
	大熊②工区	2020年4月17日～ 6月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.26
	大熊③工区	2020年4月1日～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	大熊④工区	2020年4月22日～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	大熊⑤工区	2020年4月14日～ 6月18日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.32
	双葉①工区東側	2020年4月28日～ 6月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.34
	双葉①工区西側	2020年4月6日～ 6月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.36
	双葉②工区	2020年4月2日～ 6月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
双葉③工区	2020年4月24日～ 6月27日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.41	

モニタリング結果概要（仮設焼却施設 大熊町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/m ³)未満であることを確認した。	資料1別添 P.90
地下水(井戸)中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.90
雨水(雨水排水集水柵)中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.90
空間線量率	大熊町仮設焼却施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（毎日）	0.36 ～ 3.49 μ Sv/hの範囲であった。	資料1別添 P.90
粉じん濃度	大熊町仮設焼却施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	最大値は1.1mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業(10mg/m ³ 超)に該当しない。	資料1別添 P.90

モニタリング結果概要（仮設処理施設 双葉町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度	双葉町仮設処理施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/m ³)未満であることを確認した。	資料1別添 P.92
地下水(井戸)中の放射能濃度	双葉町仮設処理施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.92
雨水(雨水排水集水桝)中の放射能濃度	双葉町仮設処理施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.92
空間線量率	双葉町仮設処理施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（毎日）	0.129 ～ 0.409 μ Sv/h の範囲であった。	資料1別添 P.92
粉じん濃度	双葉町仮設処理施設	2020年3月1日 ～2020年6月30日（月1回）	最大値は6.56 mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業(10mg/m ³ 超)に該当しない。	資料1別添 P.92

モニタリング結果概要（廃棄物貯蔵施設）

主な測定項目		測定時期	概要	詳細
◆地下水（井戸）中の放射能濃度	大熊1工区	2020年4月28日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.44
	双葉1工区	2020年4月2日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.46
★空間線量率 （作業環境）	大熊1工区	2020年4月28日～ 6月5日（月1回）	0.06～0.16μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.44
	双葉1工区	2020年4月10日～ 6月30日（月1回）	0.15～0.70μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.46

モニタリング結果概要（技術実証フィールド）

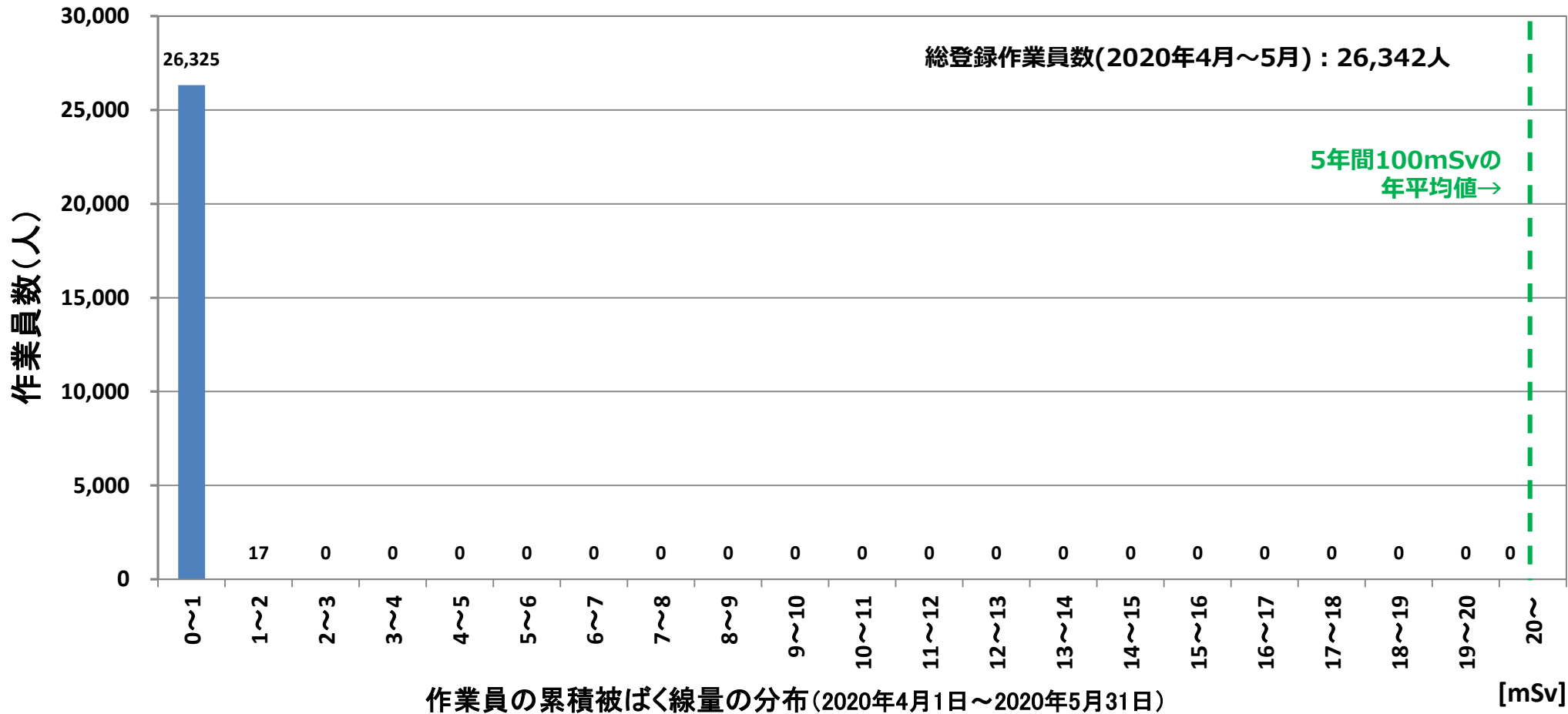
主な測定項目	測定時期	概要	詳細
◆地下水（井戸）中の放射能濃度	2020年4月2日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.49
●排気中の放射能濃度	2020年4月24日～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.49
■処理水放流先河川の放射能濃度	2020年4月2日～ 6月4日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～3.9Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≤1）を下回った。 なお、処理水の放射能濃度は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.49
★粉じん濃度	2020年4月24日～ 6月8日（月1回）	最大値は0.5mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.49
★空間線量率（作業環境）	2020年4月24日～ 6月8日（月1回）	0.09～0.66μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.49
★空気中の放射能濃度	2020年4月24日～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.49
表面汚染密度（★床★壁★設備）	2020年4月24日～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.49

その他の空間線量率、放射能濃度等の測定結果

測定項目	期間	概要	詳細
保管場等における空間線量率、地下水中放射能濃度	2020年4月1日～8月2日	空間線量率は、除去土壌等の保管、処理、貯蔵等による周辺への影響は見られなかった。地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添P.95～96
中間貯蔵施設区域境界における大気中放射能濃度、空間線量率	2020年4月1日～8月2日	大気中放射能濃度は、Cs134は全て検出下限値未満、Cs137は検出下限値未満～ $4.26 \times 10^{-3} \text{Bq/m}^3$ の範囲であり、基準（Cs134の濃度/20 + Cs137の濃度/30 ≤ 1）を下回った。空間線量率は、通常の変動の範囲内で推移していることを確認した。	資料1別添P.97～98
輸送路における放射線量率	2020年4月1日～6月30日	輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。	資料1別添P.101
仮置場搬出時の輸送車両周辺の空間線量率	2020年4月1日～7月31日	全輸送車両が除去土壌の収集・運搬に係るガイドラインの基準の100μSv/hを十分に下回った。 （表面線量率が30μSv/hを超える大型土のうを積載した車両について測定を実施）	資料1別添P.103
中間貯蔵施設退出時の輸送車両の表面汚染密度	2020年4月1日～7月31日	全輸送車両が退出基準の13,000cpmを十分に下回った。	資料1別添P.104

作業員の被ばく線量①

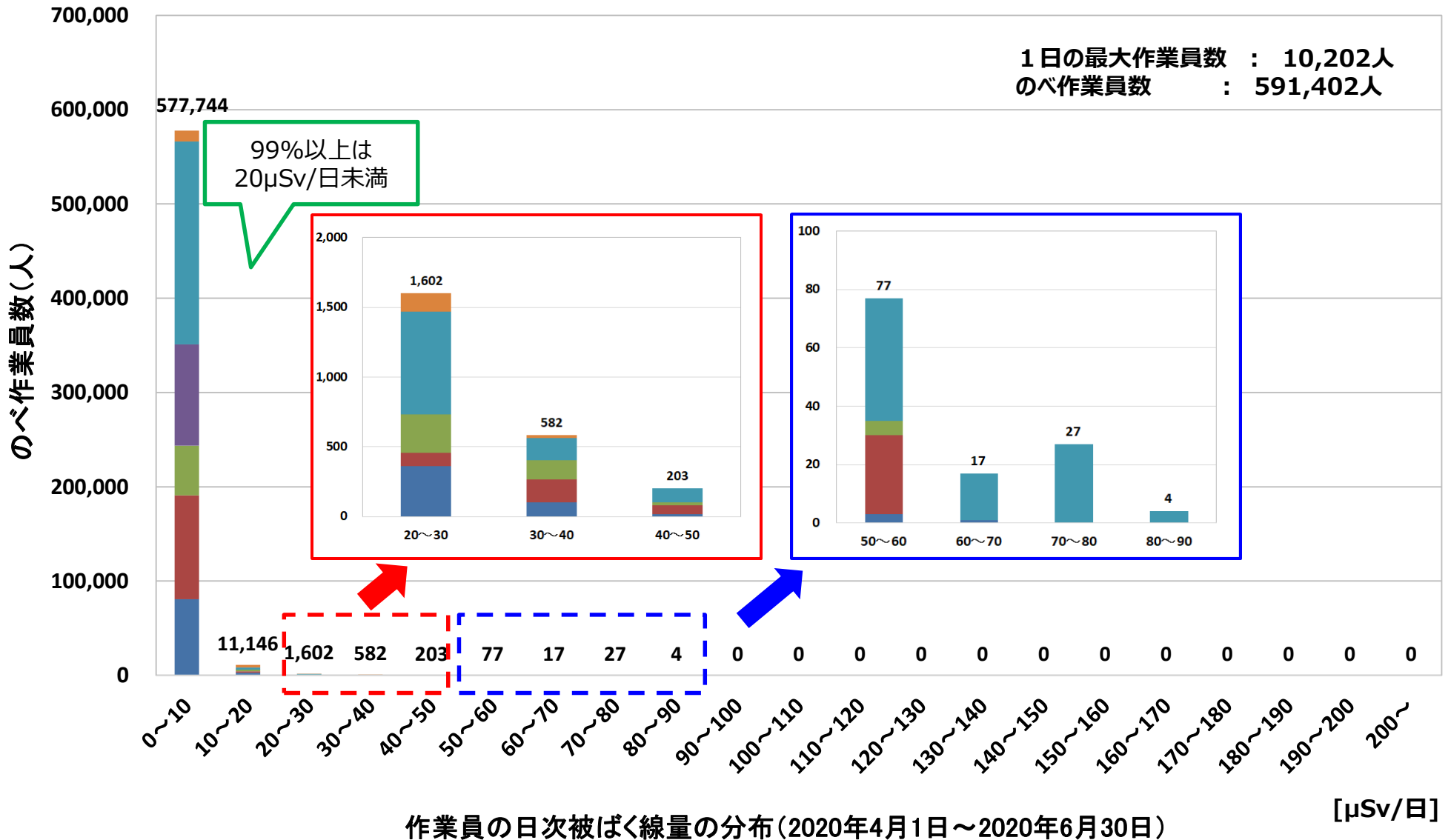
- 仮置場等及び中間貯蔵施設の作業員、輸送車両の運転者等、全ての業務従事者の被ばく線量が、電離則及び除染電離則で定められた限度(5年間で100mSvかつ1年間で50mSv等)を超えないよう、各工事の受注者が管理している。(各受注者は、安全を見込んだ自主的な目標を設定し、管理している。)
- 環境省は、各受注者が管理する作業員の被ばく線量の情報を収集・分析し、管理が適切に実施されていることを確認している。



※ 中間貯蔵施設事業による被ばく線量に限ると、2020年度の累積被ばく線量の最大は1.30mSv。

作業員の被ばく線量②

■ 管理・監督者等 ■ 仮置場作業員 ■ 保管場作業員 ■ 運転者 ■ 施設作業員 ■ その他



減容・再生利用

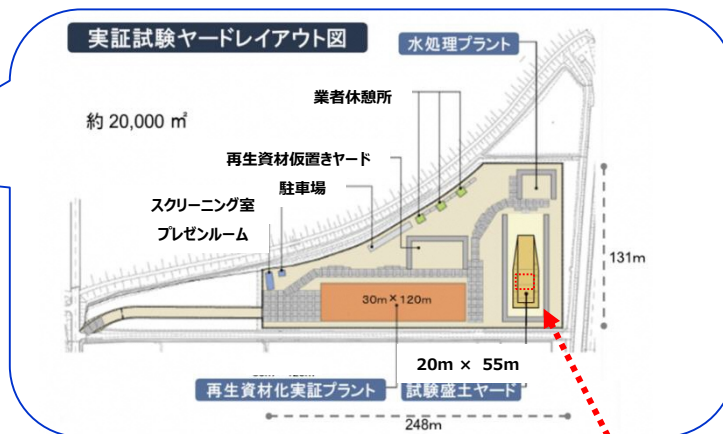
南相馬市小高区東部仮置場における実証事業の概要

- 南相馬市において、再生資材化の方法や再生資材を用いて施工した盛土の安全性等を確認するための実証事業を行っている。
- 本実証事業において、盛土の施工前後で空間線量率等の大きな変動は見られず、盛土の浸透水の放射性セシウムは検出下限値未満であり、安全性が確認されている。引き続き、広く実証事業等を実施し、データを蓄積していく。

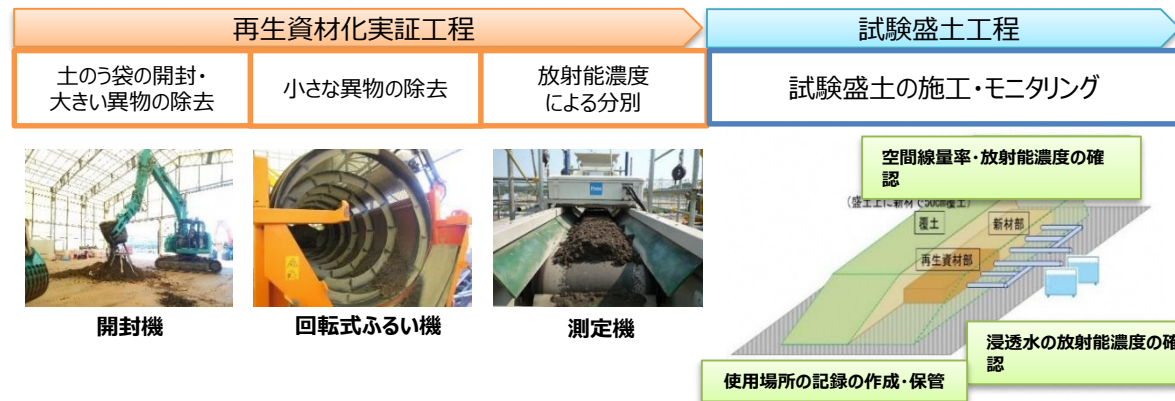
◆事業箇所図（東部仮置場内の敷地の一部を再生利用実証事業に使用）

★ は実証事業実施場所

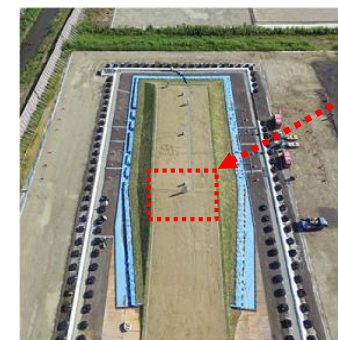
実施期間：2016年12月～



◆作業工程



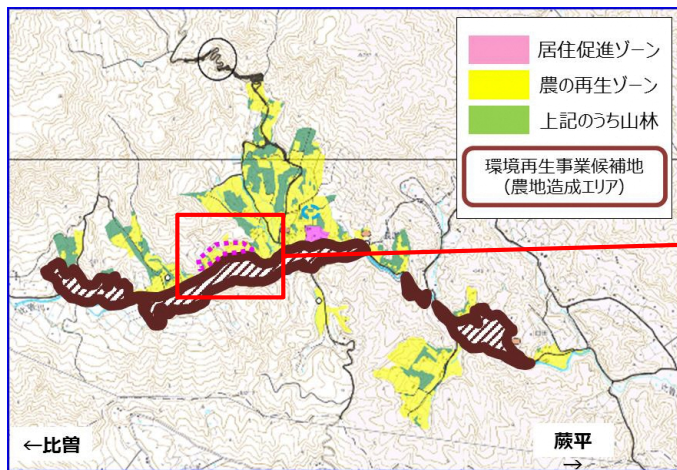
◆完成後の盛土の様子



再生資材利用箇所

飯舘村における再生利用実証事業の概要

- 2018年4月に認定された「飯舘村特定復興再生拠点区域復興再生計画」において、実証事業により安全性を確認したうえで、造成が可能な農用地等については、再生資材で盛土した上で覆土することで、農用地等の利用促進を図ることとされている。
- 地元の皆様の御要望等を踏まえ、以下に示す試験栽培を実施し、放射性セシウムの移行等に関する科学的知見を幅広く取得することとしている。
 - ①ビニールハウス内にて、遮へい土による花き類等の生育性について確認(2019年1月～)
 - ②西側盛土にて資源作物の露地栽培を開始し、放射性セシウムの移行について確認(2019年6月～)
 - ③西側盛土および東側盛土にて、食用作物・花き類の栽培を開始(西側盛土：2020年5月～、東側盛土：2020年6月～)
 - ④東側盛土の一部にて、覆土なしによる露地栽培を開始し、覆土材の農業利用上の特性等を検証(2020年8月～)
- 2020年6月から農地の盛土等工事の準備を順次開始。



【全体整備規模】候補値：34ha（今後変更となる場合がある） ※盛土量等について、今後の計画により具体化する。

技術実証フィールドの整備状況

- 除去土壌等の処理、減容・再生利用及び県外最終処分を効果的に進めていくため、中間貯蔵施設区域内で貯蔵されている除去土壌等を用いて、これらに関する実用的、実務的な技術の開発を行う技術実証フィールドを大熊町に整備し、実証試験事業を実施中。また、双葉町においても技術実証試験を検討中。



ドローンによる技術実証フィールド全景(2020年8月6日時点)

技術実証フィールドの主な施設

実証ヤード	実証試験を実施するための4つのヤードを整備(約1,600㎡/ヤード)
資材置場	試験資材の一時置場
分析棟	放射能濃度分析、土質分析、化学分析等を実施
管理棟	技術実証フィールド管理のための事務室等を設置

- 2020年1月技術実証フィールド完成。
- 技術実証フィールドは、公募技術実証事業の採択者や、JESCO（共同で研究を実施する者を含む。）が利用。現在、JESCOにおいて分析業務も実施中。
- 技術実証フィールド利用者は、実証ヤードを利用した実証試験の実施や、分析棟を利用した試料の分析が可能（分析はJESCOの委託業者が実施）。また、実証試験に必要な試験資材、電気、水の提供を受けることができる。

2020年8月時点の実証事業

実証試験者	実証テーマ	ヤードNo.	期間
奥村組	膨潤抑制剤添加処理により除去土壌の再利用を効率化する技術	4 (北側)	2019/9～2020/12予定 (2019年度からの継続事業)
JESCO・国立環境研究所	除去土壌の再生利用時の安全性や安定性に関する実証実験	3	2020/1～2021年度予定 (2019年度からの継続事業)

2020年度のJESCO公募実証事業のスケジュール

9月頃：新規実証事業者による実証ヤードの利用開始予定

広報・普及活動

広報・普及活動

- ラジオ：毎週月・水・木曜午前10時台（AM）、火・金曜午前9時台（FM）の交通情報枠で、地元ラジオにおいてお知らせを放送。
- 新聞広告：再生利用に関する取組（12月～3月）、輸送の状況（3月）を紹介。
- ポスター等の掲示：チラシやポスターを県内外の高速道路のSAやPAに配置。
- 中間貯蔵施設見学会：一般の方向けの見学会（事前申込制）を毎月実施。
- 環境大臣等の部屋への、中間貯蔵施設からの除去土壌を用いた鉢植えの設置。（3/6）



除去土壌を用いた鉢植えの設置状況(大臣会見時)

令和3年度までに、除去土壌などの概ね搬入完了を目指します。

県内に仮置きされている除去土壌などの輸送を進めています。これまでに約600万m³を中間貯蔵施設へ搬入しました。今年度は400万m³程度輸送することとしており、令和2年度も、今年度と同程度の量を輸送します。

輸送状況	輸送対象物量は、約1,400万m ³ (埋置困難区域を除く)	残量
(令和2年12月31日現在)	キタフのり(%) (割合)は、輸送対象物量に対する割合。	
搬出済量	約600万m ³ (約43%)	約800万m ³ (約57%)
平成30年度まで	約260万m ³	
令和元年度	約400万m ³ (予定)	
令和2年度	令和元年度と同程度	

環境省は、安全第一に、地域の理解を得ながら、中間貯蔵施設事業を進めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

環境省 0120-027-582

輸送に関しては、パソコンやタブレット、スマートフォンから、高速道路や主要な国道・県道の搬送車両のリアルタイムな走行状況がご確認いただけます。

再生

中間貯蔵工事情報センターについて

【概 要】

- 2019年1月に国道6号沿いの中間貯蔵施設区域内に情報センターを設置。
- 中間貯蔵施設事業を中心とする福島環境再生に向けた取組について、映像やパネルを用いて分かりやすく紹介。 中間貯蔵施設が立地する大熊町・双葉町の風土、歴史や復興に向けた取組なども紹介。

【運営状況】

- 来館者数累計： 7,981 人
平均： 26人/日(平日28/日 土・祝22人/日) (2019年1月31日～2020年7月31日)
- 中間貯蔵施設区域内をバスで周回する中間貯蔵施設見学会(事前申込制)を毎月実施。



開館時間：10時から16時まで
休館日：日曜・月曜(月曜日が祝日の場合は翌平日)、年末年始



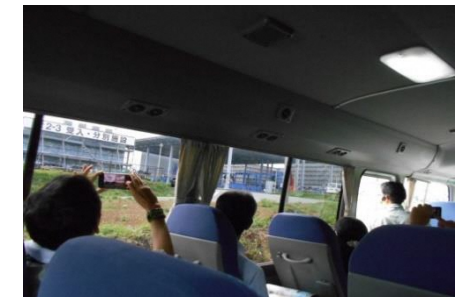
エントランスゾーン



大熊町・双葉町コーナー



展示コーナー



見学会の様子

その他

新型コロナウイルス感染症に対する対策

- 環境省から全事業者に対して、福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策や福島県知事による要請、業界団体等が作成した感染予防ガイドライン等に沿った対策を行うよう、累次にわたり要請・指示を行っている。
- 具体的には、下請け事業者も含めた全作業員に対して、以下の取組を行うよう要請・指示を行っている。
 - マスクの着用、手洗い・手指消毒の徹底など基本的な感染防止策の徹底
 - 相対的に感染リスクの高い地域に移動する場合等の行動履歴の記録等
 - 仮に感染者等が発生した場合において、速やかに対応する体制づくり

対策の具体的な事例

共用部(ドアノブ)の消毒



朝礼における3密の回避



事業の方針

参考

令和2年度の中間貯蔵施設事業の方針①

- 安全を第一に、地域の理解を得ながら、事業を実施する。
- 令和3年度までに、県内に仮置きされている除去土壌等※（帰還困難区域を除く）の概ね搬入完了を目指す。
- これに向け、身近な場所から仮置場をなくすことを目指しつつ、令和2年度は安全を第一に、前年度と同程度の量を輸送する。

輸 送

- より安全で円滑な輸送のために以下の対策を実施。
 - ・運転者研修等の交通安全対策や、必要な道路交通対策を実施し、安全な輸送を確保。
 - ・円滑な輸送のため、輸送出発時間の調整など特定の時期・時間帯への車両の集中防止・平準化に取り組む。
- 市町村と連携して計画的な輸送を実施。各市町村の搬出量は、福島県と連携し、市町村と調整の上、避難指示の解除等に伴い住民の帰還を進めていく地域や立地町である大熊町・双葉町等への配慮等を考慮して決定予定。

※令和元年10月集計時点での輸送対象物量(搬入済量+仮置場及び減容化施設等での保管量)は約1,400万[㎡]

用地

○着実な事業実施に向け、引き続き丁寧な説明を尽くしながら用地取得に全力で取り組む。

施設

○受入・分別施設及び土壌貯蔵施設

・受入・分別施設は、全9施設を安全に稼働。

・土壌貯蔵施設は、全8工区を安全に稼働するとともに、整備されたところから順次活用。
土壌貯蔵が終了した施設では、安全性を確保しつつ、維持管理を着実に実施。

○廃棄物関連施設

・仮設焼却施設及び灰処理施設並びに廃棄物貯蔵施設を安全に稼働しつつ有効に活用。

減容・再生利用

○最終処分量の低減に資する、除去土壌等の減容・再生利用に向け、関係機関の連携の下、地元の御理解を得ながら、技術開発や実証事業を実施するとともに、再生利用先の具体化を推進。

○減容・再生利用の必要性・安全性等に関する理解醸成活動を推進。

当面の施設整備イメージ図

当面の施設整備イメージ図

現時点での各施設の整備の想定範囲を示したものであり、図中に示した範囲の中で、地形や用地の取得状況等を踏まえて、一定のまとまりのある範囲で整備していくこととされています。また、用地の取得状況や施設の整備状況に応じて変更の可能性ががあります。

土壌貯蔵施設の容量について、既に発注済みの双葉①～③工区、大熊①～⑤工区のうち、川野地区において、実際に整備することが、なる地形や貯蔵高さ、用地確保の状況によって変動するが、概算容量は、1,200万～1,450万m³程度が想定と見込んでいます。

(令和2年1月時点)

